

## 主 題：父とは

## 聖書箇所：エペソ人への手紙 6章4節

最近、特に、児童虐待のニュースを耳にすることが多くなったように思います。全国の児童相談所が2016年度に対応した児童虐待の件数は122,578件で、前年度より19,292件増えている。26年連続でその数は増え続けていると、そのような統計が出ています。また、同時に、虐待による死亡の事例は年間50件を超えていると、つまり、1週間に一人の子どものいのちが奪われてしまっているのです。大変悲しいことです。家庭に大きな問題があるということを私たちは知っています。なぜなら、親は子どもの幸せを一番願っているはずです。それなのにどうしてこんな悲劇が絶えないのでしょうか？私たちは聖書を見るとときにその理由を知ることが出来ます。問題は「人間の罪」です。

聖書が教えるように、世の終わりが近づくほどに人々の愛は冷えていきます。同時に、自分自身に対する愛は増し加わっていき、人々は益々自分中心に物事を考えていく、自分中心に物事を選択していく、そのような世の中になっていくと言います。まさにそのことが、今、私たちの周りで起こっているのです。今のこの世の中を見て、皆さん、私たちクリスチャンのこの世に対する責任は、これまで以上に大きくなっていくと思いませんか？子育てに関して、また、親子や家庭に関して人々は真理を知りません。それゆえに、彼らは混乱したこの世にあってもがき苦しんでいます。そのような彼らに何が真理なのか？どのように生きるべきかを教えることができるのは私たちクリスチャンだけです。

なぜなら、私たちは子育てに関して親子に関して家庭に関して、創造主なる神の教えを知っているからです。ですから、神が教えてくださっている真理をあなたが実践することによって、あなたはこの世にあって大きな証を立てているのです。どうしていいか分からない混沌としたこの世にあって、私たち信仰者は「こう生きるのだ。このように子どもたちを育てていくのだ。家庭はこのように築くのだ。」と神の真理に基づいた歩みを通して、彼らに最も必要な証を為していくことになるのです。

今日、私たちが見ようとしている箇所は新しいところではありません。もう何度も見た箇所です。でも、敢えてこの日にこの箇所を見ていくのは、クリスチャンの父親であるあなたが、また、母親であるあなたが、より明確な証を為していくためです。そのために主が教えてくださる子育てに関する教え、神の命令をごいっしょに見ていきましょう。そして、願わくは、この学びを通してあなたが益々そのように生きて、この世に希望をもたらすことです。

エペソ6：4、今日のテキストです。このように記されています。「父たちよ。あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」

## A. 子育てのゴール：子どもたちひとり一人が幸せになること エペソ6：1-3

まず初めに押えておきたいことは「子育てのゴールは何か？」、いったい何を目標に私たちは子育てをするのか？ということです。もちろん、信仰者である私たちは愛する子どもたちがみな同じ救いに与ること、罪の赦しをいただいて永遠のいのちをいただくことを何よりも望んでいます。ですから、そのことを祈りながら、そのために私たちは神のメッセージを伝え続けるのです。正しくはそうです。

少し見方を変えてみたときにこのように言えますか？「私たちが子育てをするその目的は何か？何をゴールにしているか」と言うと、愛する子どもたちが幸せになることです。エペソ人への手紙6章の1節から見てください。1-3節には子どもたちに対する教えが書かれています。「:1 子どもたちよ。」と呼び掛けています。「主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。:2 「あなたの父と母を敬え。」これは第一の戒めであり、…」とこの教えは十戒から来ています。「約束を伴ったものです。」、どんな約束か？「すなわち、:3 「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする」という約束です。」、これが子どもたちに与えられた神のメッセージです。あなたの両親に従いなさいと。あなたは両親を心から敬って従っていきなさい、これが子どもたちが幸せになるために必要なことであると、このようにみことばは教えています。

・「幸せ」とは？：もちろん、この幸せはこの世が言う幸せではありません。なぜなら、この世の幸せは一時的なものだからです。必ず、そこには条件があるからです。こういう条件を満たせば幸せになるとか、満足するとか…。神が与えてくださる幸せはそれらを超越しています。何があろうとなかろうと、私たちの心は平安で満たされています。感謝が溢れています。神しか与えることが出来ないその幸せをもって、自分の願いが叶おうと叶わないとも、自分の思い通りに物事が進もうと進まないとも、自分が健康であろうとそうでなかろうと、条件を越えて、神がくださる幸せは私たちの心が常に平安に喜びに感謝に溢れます。そして、どんなときにも私たちの心が満たされている。充足の人生を私たちは送

ることができます。

・「主にあって両親に従うこと」 : そのような祝福を神は私たちに約束してくださっています。そして、それを得るために子どもたちは両親に従いなさいと教えます。なぜ、それが大切なのか？ 1節に書かれていました。「これは正しいことだからです。」と。これは神の前に正しいことだと、そのようにパウロは教えます。同時に、子どもたちに対する教えをパウロはコロサイ3：20でこのように教えています。「子どもたちよ。すべてのことについて、両親に従いなさい。それは主に喜ばれることだからです。」と。エペソ書では「正しいことだから」、コロサイ書では「主に喜ばれることだから」と教えています。両親に従うこと、それは神の前に正しく、神に喜ばれることだということです。そして、それを実践する者に神の祝福が約束されていると言うのです。

先に話したように、この6：2-3のみことばは旧約聖書に記されています。出エジプト記20章の中にあります。「あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が与えようとしておられる地で、あなたの年齢が長くなるためである。」(20：12)と。パウロはこのみことばを引用するのですが、このみことばは元々イスラエルに与えられた約束です。でも、パウロはその約束からすべての人への約束としてここに記しています。イスラエルの子どもたちだけでなく、すべての子どもたちにこのことは適用されると。「…【主】が与えようとしておられる地で、…」、イスラエルには主が与えてくださる地が約束されていました。エペソ6：3では「地上で長生きする」と、つまり、祝福が与えられるということです。同じ出エジプト20：6には「わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。」とあります。

まとめるとこうなります。「神は神の命令に服従することによって神への愛を示す者たちを愛し、彼らを祝される」のです。私たちが神の命令に従っていくのは神を愛しているからです。ですから、私たちが感情的にただ「神さま、私はあなたを愛しています」と言ったとしても、神はそんなものをお喜びになりません。「神を愛している」と言うなら、神の教えていること、神のみこころに従いなさいと言われるのです。それによって私たちは神を愛していることを証するのです。ですから、このように言えます。「神を愛している人は神のみことばに従い続けている人だ」と。そして、神はそういう人を愛し、祝してくださるのです。それがこのみことばが教えていることです。

確かに、この世でも親を敬い親の言い伝えをしっかりと守ろうとしている人がたくさんいます。そこで、パウロはそのような人たちのことを言っているのではないということをはっきりするために、6：1に「主において両親に従いなさい。」「主において」という前置詞を記しています。なぜ、このことばを使ったのか？この「両親に従っていく」ことは、神を愛する者たち、神の救いに与った者たちは神から新しい願いをいただいて、「これが神が教えておられること」「これが神の前に正しいこと」「これが神に喜ばれること」、だから、私はそのように生きていきたいと、そのように生きるならば…とっているのです。

ただ何となく両親を敬って両親に従いさえすれば祝されるということではありません。パウロが言いたかったことは「主において」と、イエス・キリストを信じて新しく生まれ変わって、神を喜ばせたいという新しい願いをいただいた者たちは、これが神が望んでおられることだから、これが神が命じておられることだから、このように生きていきたいと、そのように生きるならば…ということです。その人を神は祝すと言われるのです。

ですから、ここで言われているのは、新しく生まれ変わったクリスチャンの新しい行動のことです。新しく生まれ変わった者として、心から両親に従うという命令に喜んで従うときに神の祝福がある、幸せを得ることができる、パウロは教えているのです。なぜなら、私たちは幸せを得るために一生懸命努力をしていました。でも、残念ながら、私たちが望んでいるものを得ることはできなかった。どこかで私たちは諦めています。そんなものはここにはない、そんなものを得ることはできない…と。それは神がくださるのです。幸せは神がくださるのです。ですから、私たちはこのみことばを見るときに子どもたちに教えなければいけません。「あなたたちの本当の幸せは神が与えてくださる」と。そのためにはこの神を信じてこの神の教えに従うことだと。特に、みことばの中に「あなたの両親に従いなさい」と教えられている通り、あなたがその神の命令に従っていくなら、神はあなたにこの祝福をくださるということです。

## B. 子育てについての神の教え 6：4

確かに、子どもたちへの教えがありますが、6：4を見ると今度は教えの対象が子どもたちから親へと変わります。なぜなら、そのように子どもたちを導いていく、育てていく責任が実は私たち親にあるからです。確かに、子どもたちに「このように歩みなさい」という命令が与えられました。その後で今度は親に対してパウロは命令を与えるのです。あなたがもし本当に子どもの幸せを願っているなら、子どもたちが幼いときからこのことを教えなければならぬと。そのことが4節に書かれています。どうすれば子どもたちが幸せになるのか見て来ました。でも、子どもたちが本当の幸せに与るためには、私たち親には大変大きな責任があると言います。子育てについての神の教えが6：4から記されています。

初めに「父たちよ。」という呼びかけがあります。もちろん、これは父親だけを指すものではありません。なぜなら、子育ては夫婦ですることだからです。協力し合っています。では、なぜ、ここに「父たちよ。」と書かれているのでしょうか。「両親」ということばを使ってもよかったです。「両親」ということばは新約聖書に20回出て来ますから、そのことばをここで使ったらよかったです。子育てをするに当たって「両親たちよ。」と言ってもよかったです。そう言わずに敢えてパウロは「父たちよ。」と言っています。それは「父親は家庭のかしら、責任者」だからです。皆さん、私たちがしっかり覚えなければいけないことは、もし、あなたに子どもが託されたときに、また、託されていないとしても、あなたはあなたの家庭における霊的な責任者だということです。神の前にあなたが立つときに、家庭におけるすべての責任が問われるのは「あなた」です。だから、ここに「父たちよ。」と言ったのです。だれが家庭におけるリーダーなのか？だれが子育てにおけるリーダーなのか？そのことをパウロは教えたのです。

パウロは教会の霊的なリーダーの条件を教えています。そこには「自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です」(1テモテ3:4)と書かれています。この「従わせている」とは「服従、従順」という意味です。つまり、神が両親に託された責任は「尊敬をもって親の権威また教え、その導きに従う神を愛する子どもたちを育てていくこと」です。私たち親に神が何を命じておられるのか？子どもたちが親を尊敬し、親の権威や教えや導きに喜んで従う、神を愛する子どもたちを育てていくことです。子どもたちが神を愛するなら、間違いなく、神が命じておられることを実践していこうとします。神を愛しているからです。ですから、私たちが目標とするのは、神から託された子どもたちが神を愛する子どもとして成長していくことです。その大きな責任があるのです。

ここでパウロが教えたように、子どもたちが特に父親に、その教えにその導きにその権威に従う者となることです。ですから、もし、子どもたちが親に対して反抗的であったりとか、親を敬うことなく蔑んだり、また、親が与える聖書からのアドバイスに耳を傾けず従おうともしないなら、ここに書かれているように家庭を治めていないということです。もっと言うなら、私たちに与えられた責任を果たしていないということになります。

ですから、まず、私たち両親、特に父親は、この主から与えられた責任を自覚しなければなりません。あなたにはこの責任が神によって与えられているのです。ですから、私たちはこの責任を他人に委託したり移譲してはならないのです。それは神の教えに反することです。子育ては大変難しいから、しっかりと学んだ専門家に任せようとする、そのような根強い風潮があります。しかし、それは責任放棄です。皆さん、神を知らない人たちが神に喜ばれる子どもたちを育てることがどうしてできるでしょうか？神から託された子育てに必要なのは、この世の知恵ではありません。神の知恵であり、神の力であり、神の恵みです。確かに、この世の知恵によって子どもの行動は少し変わるかもしれない、でも、私たちが変えたいのは行動ではなく心です。その心を変えることが出来るのは、私たちが造られた創造主なる神だけです。この責任が私たち親に託されているのです。非常に大きな責任です。

また、ある人たちは子どもを日曜学校に連れて来れば責任を果たしたと思っているかもしれませんが。繰り返しますが、託された子どもたちをしっかりと育てていく責任は日曜学校の教師に与えられたものではありません。私たち親に与えられています。ですから、初めに言ったように、神を知らない人たち、彼らがプロフェッショナルだからと言って彼らに子育ての責任を委ねることはできないし、同時に、この教会においてもその責任をだれかに託すことはできないのです。これはあなたの責任なのです。そのようにあなたは思っていましたか？

今から、私たちは「何をしてはいけないのか」「何をすべきなのか」ということを見ていきます。ここに書かれています。6:4「あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」、でも、確かに、今見たように、子どもを育てていくというのは大変なことです。私たち自身が不完全なのですから…。でも、神は不可能なことを私たちに命じてはおられません。それを通して私たち親が学ぶことは山ほどあります。それを通して私たち自身が変えられていきます。でも、私たちは神に喜んでいただくためには、神の教えに従ってその責任を果たしていかなければなりません。だから、まず、私たちが覚えることは、子どもを育てていくという責任は親である私に与えられたものだということです。そして、その責任者は父親である「あなた」だということです。これが私たちが神の前に立ったときに問われることです。その責任を果たしたのか？と。

**\*父、また親として、「してはならないこと」と「すべきこと」が教えられている**

### 1. してはならないこと = 子どもをおこらせること

何をしてはならないのか？「あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。」とあります。これがしてはならないことです。「おこらせてはいけません」とはどういうことでしょうか？まず、聖書が教えていないことを言います。ここで言われていないことは、子どもが怒らないようにいつも機嫌を取ることです。そんなことが聖書の教えでないことは皆さんお分かりですね。なぜなら、そんなことをするなら、子ど

もは益々わがままになっていきます。

では、何を教えているのか？この「おこらせる」という動詞は「だれかが怒りをもったり、大変な怒りを抱くその原因となる」ということです。だれかを根深い怒りに導いていってしまうのです。つまり、子どもたちの心に根深い怒りを植え付けるような、そんなことをしてはならないということです。実際に、子どもたちの中で親に対して非常に根深い怒りをもっているというケースがあります。悲しいことですが…。それはどうしてか？してはならないことをして来たからです。悲しいことに、教えていることを守らなかったからです。

#### ○子どもを怒らせてしまうこととは？ = してはならないこと

では、どのようにすると子どもたちの心にそのような根深い怒りをもたらしてしまうのでしょうか？七つのことを挙げます。

1) **いつまでも子ども扱いをする** : 決して子どものことを信頼しないのです。「うちの子にはまだ無理です。子どもだから…」と。本来なら、子どもたちが年齢とともにいろんなことを決めていかなければいけないのに、親が全部決めてしまうのです。もちろん、小さい時はそれは必要でしょう。でも、大きくなるにつれて、子どもたちは自分で考えなければなりません。でも、いつまで経っても親が決めてしまうのです。そうすると、子どもの中に怒りが生まれて来ます。

2) **子どもをひいきすること** : 偏愛です。イサクとリベカの例があります。また、ヤコブが溺愛したヨセフのことがあります。イサクとリベカのことを見ると、創世記25章に書かれています。25:28に「イサクはエサウを愛していた。それは彼が獵の獲物を好んでいたからである。リベカはヤコブを愛していた。」とあります。両親が別々の子どもを愛するのです。そこには様々な嘘が出て来ます。家族は崩壊します。大変悲しいことですが、このような悲劇を私たちは聖書の中に見るのです。そして、このエサウがヤコブを殺そうと考えます。大変悲しい結末です。でも、もっと悲しい結末は何かと言うと、このエサウの子孫のことです。エサウの子孫はエドム人です。エドム人、彼らが住んでいたのはアカバ湾という南の海からずっと北に上がっていくと死海がありますが、その辺りを支配していたのがこのエドム人です。イスラエルの民がエジプトを出て来てシナイ山で十戒をいただいた後、彼らは北に登って行こうとします。そこで彼らはこのエドム人の土地を通りたいと願い出るので、でも、彼らはそれを許可しませんでした。イスラエルの民が通ろうとしているのにそれを受け入れることをしなかったのです。ですから、イスラエルの初代王であったサウル王はこのエドム人に戦いを挑み彼らを懲らしめました。その様子がIサムエル14章に書かれています。Iサムエル14:47「サウルは、イスラエルの王位を取ってから、周囲のすべての敵と戦った。すなわち、モアブ、アモン人、エドム、ツォバの王たち、ペリシテ人と戦い、どこに行っても彼らを懲らしめた。」と。

それだけではありません。その子孫ですが、生まれたイエスを拝むために東方の博士たちがやって来ました。マタイ2章に書かれています。彼らはエルサレムにいるヘロデ大王のところに出て来ました。マタイ2:2「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」と博士たちはヘロデに聞きました。ヘロデは「ベツレヘムだ」と言って彼らを送り出すわけです。そのときヘロデは「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」(2:7)と言いました。もちろん、ヘロデはそんなことを考えていませんでした。この邪魔者のイエスを殺そうとするわけです。東方の博士たちは神から啓示を受けてヘロデのところに戻らずに、そして、東の方へと帰って行きます。そのことに気付いたときヘロデは「その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかると、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年齢は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。」(2:16)と。このような命令を下した人物、ヘロデ大王はエサウの子孫です。彼は主イエス・キリストを殺そうとするのです。大変悲しいことです。

もちろん、ヤコブとヨセフのケースも、ヤコブがヨセフを愛していたゆえに、兄弟たちはそのことを大変妬んでいました。私たちがしてはならないことは子どもたちを偏愛することです。神から託された子どもたちを同じように愛していくこと、そうでなければ子どもたちのうちに怒りを植え付けることになります。

3) **子どもを失望させること** : 子どもたちがいろんな夢をもつときに、もちろん、幼いときにもつ夢もあります。実現不可能な現実離れた夢を持つでしょう。それらの夢を聞いて「無駄だ！そんなこと出来っこない。」と言うなら、このことばは子どもたちを失望させるでしょう。それによって子どもの中に怒りが芽生えるのです。

4) **子どもを虐待すること** : 例えば、親が自分の怒りを子どもにぶつけてしまうこと。最初に話したように、大変悲しいことが起こっています。暴行的な行為、肉体的な虐待です。また、それだけでなくことばによる虐待があります。例えば、子どもの恥を人前でさらけ出したり、人前で恥をかかせる

こと、このようなことも虐待に当たります。これらのことを通して、子どもたちは心のうちに深い傷を負い、怒りを覚えるのです。

5) **子どもに過度の期待をかけること** : 親は自分自身のエゴによって余りにも高いレベルを子どもに要求するのです。よく聞きます。「自分の出来なかつた夢を子どもに押し付ける」と。子どもにとってはありがたい迷惑です。子どもたち一人ひとりには神によって造られたものであり、特別な神のご計画があります。自分の理想であったり、自分の目的を子どもに無理強いしてしまう。これは子どもを自分の所有物にしているのです。そうすると、子どもたちの中に大変な怒りが出て来ます。

6) **自分がしないことを子どもに強要すること** : 例えば、「約束を守りなさい」と教えていながら親自身が約束を守らなかつたらどうですか? 「悪いことをした時はちゃんと謝りなさい」と言っていないながら、親が誤ちを犯した時にそれを認めようもしない、それを謝ろうもしない。そんな親が「こういうことをしなさい」と言っても、もしかすると、子どもは「僕に言う前にお父さんがやってよ」と思っているかもしれません。もし、そうであるなら間違いなく彼らの心に反発が芽生えて来ます。

7) **感情的、気まぐれであること** : 行動に一貫性がないのです。ある時は凄く怒られたけれど、別の時は同じことをしたのに何も言われなかつた。同じことをしていても、機嫌の良い時には怒られないが、機嫌の悪い時は怒られると、一貫性がないのです。もし、こういうことを親がやっているなら、子どもたちの心の中に怒りを植え付けてしまいます。そのようなことがあってはならないと、みことばは私たちに教えてくれます。

## 2. すべきこと = 育てなさい

どうすればよいのか? 4節の後半が教えてくれています。今度は私たちがすべきことです。「…かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」とあります。「育てなさい」という動詞は「栄養を与えて成人に育て上げていく」ということです。子どもたちに食べ物を与えて子どもたちが大きく育つ、成長していくことを願うように、私たちは彼らの信仰的な部分の成長を同じように願うのです。そのために大切なことが二つ挙げられています。「主の教育」と「主の訓戒」です。

### ○「育て方」を教えている

1) **主の教育** : 「教育」ということばは新約聖書の中に6回出て来ています。この箇所では「教育」、Ⅱテモテ3:16では「訓練」と訳されています。後はすべてヘブル書12章で5、7、8、11節の4箇所には同じように「懲らしめ」と訳されています。この「主の教育」というのは、「子どもたちが正しい習慣的な行動を形成することを目的に訓練を提供すること」です。

また、実は、このことばには「しつけ」という意味があります。私たちは子どもたちが正しいことを習慣的に行っていくために、神のみことばをもってしっかりと教えていくのですが、子どもたちが間違っただけをしたときには、私たちは「しつけ」をしなければならないのです。彼らが間違っただけをしたときには、そこには必ず結果が伴うということを教える必要があります。ソロモンは箴言22:6で「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。」と教えています。幼いときにしっかりとやっておきなさい、そうすれば彼らが大きくなってその教えから離れないからと言うのです。子どものうちにしっかりとこのレッスンを子どもたちに与えることです。

さて、「しつけ」ということを言っていますが、「主の教えに逆らうならそれは間違っている」ということを私たちは教えなければいけません。ときには、スパッキングをして子どもたちに教えなければいけない。でも、私たちが覚えておかなければいけないのは、この「しつけ」というのは怒りを発散することではないということです。これは私たちの愛の行為です。子どもを愛するから、子どもが間違っただけの選択をしたときにそのような選択をしないように、正しい選択をするように彼らを教えていくのです。ソロモンはまたこのように言っています。箴言22:15「愚かさは子どもの心につながれている。懲らしめの杖がこれを断ち切る。」と。しっかりと間違っただけのところから正しいところに立ち返るように、正しく歩み続けていくように、子どもたちが間違っただけのときに私たちは愛をもって教えなければいけないのです。

皆さん、「教える」と言いました。ただ、あなたの怒りをぶつけることは教えたことにならないのです。なぜ怒られているのか子どもたちが理解しなければならない、自分のやったことが間違っているということに彼らは心から悟らなければならないのです。それで初めて「教えたこと」になるのです。もしかすると、私たちはこの叱ること、しつけが自分がイライラしているときにその怒りをぶつけるだけになっているかもしれません。これは教えたことにはなりません。先ほどから見ているように、それは子どもたちの中に怒りを生じさせることになるかもしれません。皆さん、私たちは「教える」のです。彼らに、間違っただけのところには何の祝福もないことを、神に従うときに神の祝福があることを教えるのです。

箴言 29 : 15には「むちと叱責とは知恵を与える。わがままにさせた子は、母に恥を見させる。」と書かれています。非常に的確です。子どもたちをしつけることなく「好きなように生きていきなさい」としたなら、後になって大きな後悔を抱く、「なぜ、もっとキチンとしつけなかったのか…」と。

これには大変な忍耐、また努力が必要です。しっかりと覚えることです。これもすべて愛の行為です。子どもたちが正しい道をしっかりと歩み続けるためにです。箴言 13 : 24に「むちを控える者はその子を憎む者である。子を愛する者はつとめてこれを懲らしめる。」とある通りです。私たちは子どもたちを育てていくに当たって、初めに見たように、子どもたちの幸せを望んでいます。その幸せは神から与えられるものです。神に逆らっていてどうして子どもたちが幸せになりますか？だから、私たちは子どもたちが間違ったとき逆らったときに、それが正しくないことをしっかりと教えて、彼らが自らの意志で「これは違う、神を喜ばせることが最高の喜びなのだ」ということを彼らがしっかりと学んで、彼らがそのように生きていくように教えていかなければならないのです。そのときに、この「しつけ」というのは非常に大切なことです。

この4節にはただ「教育と訓戒」ではなく「主の教育と訓戒」と書かれています。これは、すべてのことを今私たちが見て来た通り、神のみことばである聖書に基づいて為さなければならないからです。この「知恵」は「主の知恵」でなければいけない。私たちがこの働きを為すために私たちは主の力をいただくかなければならないのです。私たちがこの働きを為すときは私たちの名誉のためではない、神の栄光のためにしなければなりません。

#### ○この教えを忠実に果たさなかった人 = 祭司エリ

私たちは子どもたちを神の知恵、神の力、神の恵みによって育てていくことです。パウロはそのことをこの4節で教えてくれたのですが、残念ながら、この教えを守らなかった例も聖書の中に出て来ます。あの祭司エリです。神に仕えるという特別な務めをいただいていた祭司エリ、信仰者でした。神に仕える者でした。彼によってあの預言者サムエルは大いに鍛えられ、信仰者として立派に成長して行きました。それだけを見るとすばらしい働きをしたのです。しかし、問題がありました。彼はサムエルに対してはすばらしかった。でも、残念ながら、彼自身の息子たちにはそうではなかったということです。

#### 1) 善悪を教えない : Iサムエル 2 : 12-17

エリにはホフニとピネハスという二人の息子がいました。彼らも祭司職に就いていました。ところが、みことばが教えることは「さて、エリの息子たちは、よこしまな者で、【主】を知らず、」（Iサムエル 2 : 12）です。彼らはふしだらなことを好んで行う者たちでした。不道德なことを行ない、そして、非常に悲しいことに、人々がいけにえを持って来た時にその肉を横取りしていたのです。その様子はすべてIサムエル記2章の中に記されています。2 : 17にはこのように記されています。「このように、子たちの罪は、【主】の前で非常に大きかった。【主】へのささげ物を、この人たちが侮ったからである。」と。

分かることは、この祭司たち、神に仕える者たちでありながら彼らは神を侮っていたのです。神に対する恐れがなかった。もちろん、彼らはみことばが教えるように神に仕えていながら神を信じていなかったのです。最悪です。でも、実際にそういうことが起こっていたのです。

なぜ、エリはこの子どもたちをしっかりと訓練しなかったのでしょうか？なぜ彼はこの子どもたちに何が善であり何が悪であるかを教えなかったのでしょうか？なぜ、彼らが祭司になっているのでしょうか？大きな問題があったのです。父親としての役割をしっかりと果たしていないのです。

#### 2) 罪を諭さない : Iサムエル 2 : 22-25

また、罪が発覚したときに彼らの罪を諭していません。Iサムエル 2 : 22から、エリの耳にこんなことが入ります。それは息子たちが大変大きな罪を犯しているということです。2 : 22-25 「:22 エリは非常に年をとっていた。彼は自分の息子たちがイスラエル全体に行っていることの一部始終、それに彼らが会見の天幕の入口で仕えている女たちと寝ているということを聞いた。:23 それでエリは息子たちに言った。「なぜ、おまえたちはこんなことをするのだ。私はこの民全部から、おまえたちのした悪いことについて聞いている。:24 子たちよ。そういうことをしてはいけない。私が【主】の民の言いふらしているのを聞くそのうわさは良いものではない。」、余りにも弱い忠告ではありませんか？「そういうことをしてはいけない。」と。この子どもたちはこの場で殺されてもおかしくなかったのです。それほど大きな罪を犯しているにも関わらず、この父親が言ったことは「そういうことをしてはいけない。」でした。悲劇はその後に記されています。「:25 人がもし、ほかの人に対して罪を犯すと、神がその仲裁をしてくださる。だが、人が【主】に対して罪を犯したら、だれが、その者のために仲裁に立とうか。」しかし、彼らは父の言うことを聞こうとしなかった。彼らを殺すことが【主】のみこころであったからである。」。この息子たちは父の言うことを聞こうとしなかったのです。

この後の4 : 10-11には「:10 こうしてペリシテ人は戦ったので、イスラエルは打ち負かされ、おのおの自分たちの天幕に逃げた。そのとき、非常に激しい疫病が起こり、イスラエルの歩兵三万人が倒れた。:11 神の箱は奪われ、エリのふたりの息子、ホフニとピネハスは死んだ。」とあります。神が起こされた災いによって

この二人は死にます。神がさばかれたのです。悲しいことに、この祭司エリは自分の子でないサムエルを立派に育てたにも関わらず、自分の子どもたちはしっかりと育てなかったのです。

何が神に喜ばれることなのか、何がそうでないのかを、残念ながら、エリは子どもたちの心に刻んで生きるように教えなかったのです。皆さん、私たちは子どもたちに語ることが出来ます。問題は、語ることではないのです。子どもたちの生き方が変わることです。なぜなら、救いというのは生き方が変わるからだからです。救いは神が与えてくださるものです。私たちは語ったからそれでいいという、そのようなことではありません。多くの人たちは悲しいことに、子どもたちが非常に小さかった時に祈った祈りにそれぞれの救いの希望を置こうとしています。何歳のときに祈った祈り、だから、その人は救われていると言います。そのように信じることは勝手かもしれません。しかし、みことばはそんなことを教えていません。聖書が教えていることは、神が救ったならその人は生き方が変わるということです。生き方の変わらない救いは神の与えてくれるものではありません。ですから、もし、生き方が変わっていないなら、私たちはその救いについて真剣に考えるべきです。

私たちが子どもたちを教えるときに、「これだけの情報を与えた」のではない、そのことによって子どもたちの生き方が変わっているかどうかです。だから、私たちはこの主の教育と訓戒によって教えるためには、それによって彼らの生き方が変わっていくためには、子どもたちと時間を取らなければいけないのです。余りにも、一番大切な務めをないがしろにしていますか？子どもと時間を取らなければ子どもたちが何を考えているのか？どんなことを経験しているのか？どんな問題があるのか？どんな悩みがあるのか？それらをどのようにして知りますか？信仰的に今どこにいるのか、どのようにして分かりますか？彼らと時間を取らなければいけません。

#### **\*子育てのその目的、それは「子どもたちが本当の幸せをいただいて生きること」**

そして、そのためには、両親は「神から託された子どもたちが、神を愛する者として聖書の教えに忠実に従う者となるために、教え導くこと。」、これが最も大切な務めだとみことばは教えるのです。恐らく、皆さんは信仰者としてそのことを教えて来られたと、そう信じています。

最後に一箇所だけ見たいところがあります。それは申命記6章です。6：1－3「1 これは、あなたがたの神、【主】が、あなたがたに教えよと命じられた命令——おきてと定め——である。あなたがたが、渡って行って、所有しようとしている地で、行うためである。：2 それは、あなたの一生の間、あなたも、そしてあなたの子も孫も、あなたの神、【主】を恐れて、私の命じるすべての主のおきてと命令を守るため、またあなたが長く生きることのできるためである。：3 イスラエルよ。聞いて、守り行いなさい。そうすれば、あなたはしあわせになり、あなたの父祖の神、【主】があなたに告げられたように、あなたは乳と蜜の流れる国で大いにふえよう。」、結局、同じことを言っています。神の教えに従うことです。それを守り行っていくことです。そうすれば、しあわせになると言います。すべてはそこにあると言うのです。そして、6：4－7「4 聞きなさい。イスラエル。【主】は私たちの神。【主】はただひとりである。：5 心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。…：7 これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。」と続きます。

もう皆さんご存じですね。子どもたちがしっかりこの神のみことばに従っていくように、いろんな機会を使って教えていきなさいと言います。今敢えて一箇所みことばを飛ばしました。6節です。「私がかよう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。」、お気づきになりましたか？順序があるのです。あなたは教えることができます。でも、その前にまずこのみことばをあなたの心に刻みなさいと言ったのです。なぜか？あなたがこのみことばをあなたの心に刻んだなら、あなたはどのように生きるからです。あなたが生きないことをどうして子どもたちに命じることができますか？あなたがやっていないことをどのようにして子どもたちに「やりなさい」と言えますか？私たちに必要なのは、神の教えを子どもたちに教えることは大切ですが、私たちが覚えなければいけないのは、まず、自分が生きることです。主のみことばに従って生きていくことです。そのときに、ことばだけでなく私たちの生き方を通して子どもたちにどう生きるのかを教えるのです。

私たちは子どもたちが幸せになってほしいと願っています。信仰者の皆さん、あなたは本当に幸せですか？神によって救われたことを何よりも喜んでいますか？あなたのすべての罪が赦されて神の子どもとされたことを何よりも感謝していますか？私たちがそのことを喜んでいなければ、このような祝福に与った私たちが本当に「自分は幸せ者だ！」と思っていなければ、子どもたちはそれを欲しがりますか？私たちの心にまず神のことばを刻まなければいけない。私たち自身がこの神のことばに従わなければいけない。そのときに、子どもたちはあなたを通して神を見るのです。もちろん、私たちは不完全です。実際にしていることは本当に情けないことです。でも、私たちがこのみことばが教えるように神の助けをいただきながら歩いていくときに、神はこんな私たちを通してでも主のみわざをなしてくださるのです。

私たちは子どもたちを教えるという大切な責任をいただきました。でも、その教えるを為すために私たちは人生の先輩、信仰の先輩として主イエス・キリストを信じて従うことがこんなにも素晴らしいということを見せなければいけないのです。主イエス・キリストによって与えられる祝福がどんなに素晴らしいのか、彼らは見たがっているのです。そのときに「これが本物だ」ということに気付くからです。

信仰者の皆さん、確かに、主が与えてくださった務めは大変大きなものです。でも、神は私たちの弱さを知った上で、それができるとしてこの務めをくださった。主の助けをいただきながら、まず、みことばに従う者にあなた自身が変わられていくことです。そして、主のみわざを期待しましょう。主のみわざがあなたを通して現わされて、私たちの愛する者たちがこの素晴らしい救いに導かれていくように、あなた自身が変わっていくことです。